

国際教育・研究が激化する中でイスラム圏に向けた
日・欧米諸国大学の進出と期待される筑波大学

最近、欧米諸国ではニューヨーク大学、ソルボンヌ大学、コーネル大学、ハーバード大学、スタンフォード大学など一流大学がこぞってイスラム圏での大学拠点形成さらに分校づくりを推進し、むしろ激化しつつあります（日経新聞 4 月 3 日付）。一方、日本においてもアジア圏でイスラム圏の玄関口にあたるマレーシアにおいて日本政府主導型で 25 大学加盟のもと、日本式工学教育を指導するために新しい大学、日本国際工科院（MJIT）がマレーシア工科大学・クアラランプールキャンパス内に 2011 年に創設され、開講しました。現在、約 590 名の学生（学部生、大学院生）が教育を受けており、約 60 名の教員が指導にあたりそのうち 18 名の日本人教員が日本から派遣され活躍しています。

筑波大学では、現地と実質的に学生および研究者および関係者との交流をはかるため、ベントン副学長主導のもと日本の大学加盟校としていち早く MJIT のクアラランプールオフィスに常駐教職員を置き、現在、生命環境系長白岩善博教授を中心に留学生交流・研修、教員交流、派遣教職員情報交換、共同指導計画・実施、共同プロジェクト形成・実施さらに共同学位プログラムの推進などにあたっています。

一方、MJIT の事業を推進するにあたって、日本政府とマレーシア政府との橋渡しとして、現地では、日本人教員の受け入れをはじめ、教育および研究プログラムの計画・実施、その他、各種事業の推進に対して詳細にわたって国際協力機構（JICA）の職員の方々に大変お世話になっています。

今後、筑波大学の ASEAN 諸国を中心とした一層の実質的な国際化大学教育・研究の牽引を願ってやみません。

文責：MJIT 派遣教員 杉浦則夫